

「中・高校生のための薬物乱用防止セミナー」 報告書

日時 : 平成29年8月22日(火) 14時~16時

場所 : 山口県下関市伊倉町二丁目1番1号

共催 : 下関市、下関市薬物対策協議会

参加者 : 約210名(市内中学生・高校生、学校関係者、薬物乱用防止推進員、
下関市薬物対策協議会関係者、保護司、市民)



1. 開会あいさつ

下関市薬物対策協議会会長 河井 臣吾

近年の話題として、有名人による薬物事件が多く40、50代の薬物汚染が騒がれる中、小中高校生による大麻や覚せい剤事件もあり低年齢化も懸念。正しい知識を若者に伝えることが大事であると挨拶。

2 薬物問題に関する発表

「薬物乱用防止教室から」

下関市立勝山中学校 生徒会





○学校薬剤師による「薬物乱用防止教室」を受講して、中学生として感じたことや思ったこと、学んだことをパワーポイントを使って発表していた。また、薬物の魔(誘い)が身近に潜んでいることを伝えるために、生徒会の全員で工夫を凝らしたロールプレイを行い、解りやすかったと大変に好評であった。

3 薬物とは？依存症とは？

一般社団法人下関市薬剤師会

事務局長

中川 明人



前半は薬について、どんなものが身近にあるのか、どんな種類があるのか、など理解を深める内容となっていた。後半は依存症とは、どのようなものなのか、依存度の高いものとは何があるのか、など具体的な薬物の名前をあげながら身近なものとの比較を行っていた。薬物、アルコール、たばこといったものの依存については、一般の方の興味をひいていた。中・高校生は、携帯を手放せない・ゲームをやめられないといったことも依存症の1つだという話に興味を持っているようであった。最後に、ねずみを用いての実験結果から、薬物に近づかないことが重要であるが、薬物を使用してしまう背景には、周りの環境（家族、友人、仲間、...）との関わりが大きく関係している、孤独やストレスが薬物依存へ繋がることを知らせていた。

4 「不正薬物乱用の恐ろしさと税関の水際取り締め」

門司税関下関税関支署 総務課課長補佐

谷川 由美子



パワーポイントを用いて、税関の仕事について、薬物などを様々な手段で不法持込を水際で取り締る現状を説明していた。また、旅行先で中身のわからない荷物を受け取り帰ってきたときに、薬物等が荷物から見つかり「運び屋」として検挙されてしまう実例を話し、不用意に他人の荷物を預かるようなことはしないようにと呼びかけていた。「自分の荷物ではない。」は、通用しない！と強調されていた。その後、麻薬探知犬2頭によるデモンストレーションが行われた。複数ある箱の中に、1つある麻薬の臭いのする箱を見つけ出すパターンと麻薬の臭いのついた物を持っている人を見つけ出すパターンを実演にしていた。麻薬の臭いがついた箱やポーチをを見つけ出した時には、会場から拍手が送られていた。遊びの中で、麻薬の臭いを嗅ぎ分けるように訓練しているということで、見事見つけ出した後にはステージ上でハンドラーと遊ぶ姿を見せていた。アンケートでも、税関の仕事始めて知った・運び屋にされる危険を感じた・デモンストレーションが良かったなど、好評であった。

5 閉会のあいさつ

下関市薬物対策協議会 副会長 藤井 信幸



発表した中学生と各講師への謝礼と薬防推進員等に対し今後も引き続き薬物乱用防止活動の推進をお願い。また、セミナーへ参加した中高校生のみんながゲートキーパーとなり、重要な役割を自分たち自身が果たしていくことを話し最後の挨拶とした。

★会場写真

